

令和 5 年 5 月 17 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K20083

研究課題名(和文) 小学校の体育授業における学習者の成功体験に関する研究

研究課題名(英文) Study on successful experiences of elementary school students in physical education classes in Japan

研究代表者

梶 将徳 (Kaji, Masanori)

早稲田大学・スポーツ科学大学院・その他(招聘研究員)

研究者番号：90824582

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、体育授業の「成功体験」を概念的・構造的に明らかにし、さらに学習者が成功体験を味わうプロセスモデルを実践的に明らかにすることを目的としていた。小学校の体育授業では、学習者に成功体験を味わせることを重視しているが、その内実については明らかにされていない。本研究は、体育授業における学習者の成功体験を探索的に明らかにした。このことから、小学校の体育授業において、学習者に成功体験を味わせる上で、有効な視座を提供できたといえる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、小学校の体育授業における学習者の成功体験について、概念的・構造的に明らかにした上で、学習者の成功体験を味わうプロセスモデルを実践的に明らかにしようとした点で、体育科教育学領域、スポーツ教育学領域に対する学術的意義がある。また、近年、増加傾向にある体育・スポーツ嫌いの子供の増加問題に対して、心理学的な視点からアプローチする可能性を与えた点で社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to conceptually and structurally clarify the "success experience" of physical education classes, and to practically clarify a process model for learners to experience success. In elementary school physical education classes, emphasis is placed on giving learners the experience of success, but the actual nature of this experience has not yet been clarified. This study exploratively clarified learners' experiences of success in physical education classes. This study provides an effective perspective on the success experience of learners in elementary school physical education classes.

研究分野：体育科教育学

キーワード：小学校 体育授業 学習者 成功体験 内発的動機づけ 体育科教育学 スポーツ教育学

## 1. 研究開始当初の背景

2017年3月に「第2期スポーツ基本計画」(文部科学省, 2017)が策定され、「スポーツ参画人口」を拡大するための施策目標の1つとして、学校体育を通して、運動・スポーツが嫌いな子供の割合を16.4%から8%に減少させることが掲げられた。しかし、運動・スポーツが嫌いな子供の割合は、2014年度以降年々増加傾向を示しており(スポーツ庁, 2018)、抜本的な改善策が求められている。

笹川スポーツ財団(2017)の調査結果によれば、子供が運動・スポーツを嫌いになる理由の58%は、運動・スポーツが苦手なことに起因するものだという。特に、体育授業では、成功体験の有無から生じる劣等感の影響によって(Carlson, 1995)、運動・スポーツに対する苦手意識を増幅させてしまう可能性がある。そのため、これからの体育授業では、学習者の運動・スポーツに対する苦手意識を持たせないための学習指導が求められる。

そこで重要となるのが、体育授業において学習者に成功体験を保障する試みである。2017年に告示された小学校新指導要領解説:体育編(文部科学省, 2018)では、学習者が成功体験を得やすいように課題やルールが緩和された運動を取り上げることが求められた。成功体験に関する記述は、全学校段階を通して史上初めての試みであった。小学校段階から成功体験を積み重ねることは、生涯にわたって運動・スポーツに対する愛好的な態度の形成に大きな影響を与えると考えられる。したがって、小学校段階から成功体験を保障させていくことには大きな意味があるといえる。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、体育授業の「成功体験」を概念的・構造的に明らかにした上で、学習者が成功体験を味わうプロセスモデルを実践的に明らかにすることである。

## 3. 研究の方法

まず、体育授業の「成功体験」を概念的・構造的に明らかにするために、全国の小学生を対象に質問紙調査を行い、そのデータを分析した。また、成功体験を味わうプロセスモデルを明らかにするために、体育授業の参与観察および、学習者への半構造化インタビューを行い、それらのデータを分析した。

## 4. 研究成果

研究成果としては、小学校の体育授業における学習者の成功体験と、成功体験に関わる諸概念(体育授業への適応感、体育授業の楽しさ、体育授業の学習方略)の構造を明らかにした4点にまとめることができる。なお、学習者の成功体験を味わうプロセスについては、現在国内誌に投稿中のため、本報告書での詳細については記載しない。

まず、体育授業における学習者の成功体験については、運動やスポーツができるようになった体験である「運動技能の上達」、ゲームの相手に勝つ体験である「勝利」、友だちが上手に運動やスポーツができた体験である「他者の成功」、他者よりも優位に立っている体験である「活躍」、仲間との協力を通して友情が深まった体験である「絆の深まり」から構成されることが明らかとなった。これらのことから、学習者が体育授業で多様な成功体験を得るためには、他者との関わり合いの中で運動技能を習熟していくこと必要があるといえる。

次に、体育授業への適応感については、他者からの信頼や受容されている感覚である「被信頼・受容感」、授業内の課題や目標があることによって充実して取り組んでいる感覚である「課題・目標の存在」、自己の運動技術が向上している感覚である「成長の実感」、仲間と協力しながら取り組んでいる感覚である「仲間の存在」、体育授業中に自己を表現できている感覚である「自己の表出」、体育授業に対する肯定的な感覚である「体育授業への親和性」から構成されることが明らかとなった。これらは、体育の教科目標と概ね類似していることから、体育授業への適応感は、学習者が体育の教科目標をどの程度内面化できているのかを反映していると考えられる。

そして、体育授業の楽しさについては、学習者同士の相互作用によって感じられる「仲間との協力」、運動に熱中して取り組むことによって得られる「運動への没入」、できなかったことができるようになることによって得られる「達成感」、他者からの注目や称賛によって得られる「他者からの承認」、運動することを通して得られる「運動の本質の体感」、学習者が意思決定を行い、創意工夫して取り組むことによって得られる「自己裁量の行使」から構成されることが明らかとなった。これらのことから、体育授業における楽しさは、多層性を有することが実証された。教師は、体育の教育実践において、このような楽しさが有する多層性への理解を深め、学習者が多様な楽しさを享受できるような学習活動を展開していくことが望まれる。

最後に、体育授業の学習方略については、円滑に学習を遂行するための学習規律に関わる「学習規律の重視」、学習に対して挑戦的に取り組む「挑戦的な取り組み」、教師の指示を遵守して学習に取り組む「教師の指示の重視」、仲間と協力して学習に取り組む「仲間との協力的な取り組み」、思考・判断しながら学習に取り組む「思考・判断」から構成されることが明らかとなった。

そして、中学校の体育授業における学習者の学習方略に関する知見を踏まえれば、学校段階の移行に伴ってより複雑化・高度化していくと考えられる。これらのことから、学習者が小学校の体育授業において多彩な学習方略を使用することは、小学校の体育授業での学びを深めるだけでなく、その後の体育授業の学び方にもつながっていくと考えられる。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 3件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Kaji Masanori, Ono Yuta	4. 巻 8(1)
2. 論文標題 Study on successful experiences of elementary school students in physical education classes in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Cogent Education	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/2331186X.2021.1997248	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Kaji Masanori, Ono Yuta	4. 巻 21(6)
2. 論文標題 Study on learning strategies in elementary school physical education	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of physical education and sport	6. 最初と最後の頁 3211-3217
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.7752/jpes.2021.s6439	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 梶将徳・小野雄大	4. 巻 40(2)
2. 論文標題 小学校の体育授業における楽しさ尺度の開発：小学校高学年児童を対象として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 スポーツ教育学研究	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Masanori Kaji, Yuta Ono	4. 巻 In Press
2. 論文標題 Structure of subjective adjustment to physical education classes for elementary school students	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Sport and Health Science	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 梶将徳・小野雄大
2. 発表標題 小学校の体育授業における学習者の成功体験に関する研究
3. 学会等名 日本体育学会第70回大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 小野雄大、梶将徳	4. 発行年 2022年
2. 出版社 小学館集英社プロダクション	5. 総ページ数 264
3. 書名 新時代のスポーツ教育学 Neo Sport Pedagogy and Andragogy	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------